

## 飛騨外縁帯八方尾根かんらん岩蛇紋岩体の構造解析と地震波特性

## Seismic properties and microstructures of Happone peridotite-serpentinite complex

# 藤井 彩乃 [1]; 道林 克禎 [2]

# Ayano Fujii[1]; Katsuyoshi Michibayashi[2]

[1] 静大・院・地球; [2] 静大・理・地球科学

[1] Inst. Geosciences, Shizuoka Univ.; [2] Inst. Geosciences, Shizuoka Univ

飛騨外縁帯は高圧型変成岩と苦鉄質～超苦鉄質岩類を主な岩相としている。八方尾根かんらん岩体は飛騨外縁帯最大の超苦鉄質岩体である。本研究は、飛騨外縁帯八方尾根かんらん岩体の構造解析を行い、その構造発達史について考察した。かんらん岩は微細構造観察から、粗粒かんらん岩と細粒かんらん岩に区分された。粗粒かんらん岩はマントル中の変形構造を残していた。結晶方位定向配列(CPO)は主にD-Typeであり、一部がA-TypeもしくはE-Type的な特徴を持っていた。細粒かんらん岩は著しく伸長した粗粒なかんらん石と細粒なかんらん石から構成される。CPOについては、a軸とc軸が蛇紋岩の面構造上に分布しているが、c軸すべりが卓越するB-Type的な特徴を持っていた。蛇紋岩は強い片理を持つタイプと片理をもたないタイプに区分された。八方尾根かんらん岩体全体の蛇紋岩の分布とかんらん岩の分布から、元のかんらん岩の構造が蛇紋岩に重複されたことが示唆される。かんらん石CPOと蛇紋岩の構造解析から、細粒かんらん岩と強い片理を持つ蛇紋岩は、連続的に発達した可能性がある。かんらん岩の地震波異方性についてかんらん石CPOの結果から見積もった結果、P波の平均速度は8.33～8.57(km/s)となった。蛇紋岩のP波の平均速度は5.03～7.30(km/s)と報告されている(Watanabe et al., 2007)。これらの地震波異方性は、マントルウェッジの海溝側において、蛇紋岩化された領域の地震波速度に対比される。